

## 次代につなぐ、まちの魅力

～新たに3つを地域景観資源に登録～

6月1日は  
「景観の日」

地域景観資源登録とは、多くの人に親しまれる個性豊かで魅力的な景観を市民の財産として守り、多様な交流の創出につなげるために進めている市景観条例に基づく制度です。市民の皆さんからの提案をもとに、市まちづくり審議会で審議し、新たに次の3つに登録しました。



### 三之宮比々多神社

正面には、立派な鳥居と樹齢500年といわれる杉の大樹がそびえ、奥に構える社殿とともに、厳かな風格を感じさせます。木々に包まれた境内は、訪れる人々の心を癒してくれます。



### 三之宮比々多神社元宮からの眺望

元宮は三之宮比々多神社から約500mの高台にある旧社殿の跡地です。相模湾を望む180度のパノラマは、江の島や三浦半島などを一望することができます。



### 三嶋神社のしだれ桜

善波地区の高台に位置する三嶋神社の境内に咲く、しだれ桜。神社のたたずまいに相応な桜の木は、毎年3月末の日曜日に開催される大祭のころに見ごろを迎えます。

### 次代に伝えたい景観資源はありませんか

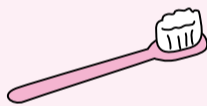
今回の登録で合計21の地域景観資源が登録されました。今後も、地域を特徴づける個性や魅力ある景観について、登録を進めていきます。皆さんが次代に伝えたい、残していきたいと思う景観を募集しています。詳しくは担当にお問い合わせください。

◇過去の登録については、市ホームページ「産業・まちづくり」→「景観」→「地域景観資源登録」をご覧ください

都市政策課 ☎94-4739

## 6月4日～10日は歯と口の健康週間

一生を共に歩む 自分の歯 (令和3年度標語)



歯と口は健康に生きていく力を支える大切なものです。いつまでも自分の歯でおいしく食事ができるように、毎食後の歯みがきを習慣にしましょう。また、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に検診を受けましょう。

### オーラルフレイル(歯と口の機能低下)にご注意を

新型コロナウイルス感染症の影響で、不要不急の外出自粛や人との接触を減らすことが求められています。運動や会話の機会が少なくなり、お口の機能が低下していませんか。滑舌の低下やむせ、食べこぼしが増えたと思ったら、オーラルフレイルかもしれません。気になることがあったら、かかりつけ歯科医に相談しましょう。

健康づくり課 ☎94-4616

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、6月5日(土)に予定していた催し(フッ化物塗布、歯の無料相談、講演会、口腔がん無料検診)は中止となりました。

秦野伊勢原歯科医師会 ☎83-3117

広告

### 相模の大地を望む緑の公園墓地

宗旨・宗派不問



おかげさまで  
大好評  
受付中

1.0m  
施工例

お手頃価格 墓地使用料 墓石工事代

101.4万円より

令和3年6月1日現在

公益財団法人 相模メモリアルパーク ☎0120-000-375  
〒243-0308 神奈川県愛甲郡愛川町三増109-2 石材センター営業時間 8:30～17:00(水曜定休)

(一財) 神奈川県教育福祉振興会指定 (一財) 神奈川県教育会館指定 (一財) 神奈川県厚生福利振興会指定  
神奈川県市町村職員共済組合指定 許可年月日/平成5年7月30日 許可番号/神奈川県指令生衛第131号

広告

### 伊勢原市のみなさん

#### ご葬儀費用の準備は大丈夫?-葬儀のための保険-

ご葬儀で家族に負担を掛けたくないという人が増えています。そんな万一に備えてご家族の経済負担をサポートする保険が生まれました。

サン・ライフ・ファミリーの「ご葬儀サポートプラン」なら、あなたの万一に備えて、大切なご家族への負担をサポートいたします。

満40歳から84歳までが加入でき、95歳まで一年単位で更新が可能で、持病があっても、通院中でも、規定の告知事項に該当しなければどなたでもご加入いただけます。

保険料は月額2,000円からで、死亡保険金は60歳女性の場合167万2千200円支払われます。

また、介護の準備金として、要支援から支払い対象となる介護一時金付定期保険もごございますので、まずは資料請求!お気軽にお電話ください。

資料請求・お問合せ

TEL.0463-22-2953

サン・ライフ・グループ 関東財務局長(少額短期保険)第50号

株式会社 サン・ライフ・ファミリー  
〒254-0024 平塚市馬入本町13-2

サン・ライフ・ファミリー 検索



千代田工業株式会社の外観。多種多様な金属製品が作られている

## 市民レポート

### 千代田工業に見た

#### 伊勢原・町工場の底力

市民リポーター 上地孝明さん



「伊勢原市では教科書を金属加工の会社が取次販売している」と耳にした。にわかには信じがたい。興味があったので、見学をお願いした。

うわさの工場、千代田工業株式会社(東井重和代表取締役社長)は白根にあった。社長の案内で工場に入る。さまざまな工作機械が並んでいた。それぞれの機械に社員が付き、作業に集中している。作業台では厚さ2ミリメートル

ほどの鉄板が型抜き・穴空け・プレスされ、瞬時にコの字型の70センチメートル程度の角棒になった。衛生陶器メーカーに納める部材とのことだが、こんな金具をトイレで見ただことはない。男子用小便器を固定する支柱だそう。

反対側では、金属片が紙のように折られている。全て機械や建築の部材で、一般の人がそのまま目にするものはな

いそう。できたものを写真に撮ろうとしたら「それは撮らないで」と制止される製品もあった。顧客の企業機密の部品だったのだ。

客のニーズに応えることを経営理念とし、少量や多品種の注文にも応じている。月平均4000種類、計3万点程を生産しているそう。自在な対応力に日本の町工場の底力を実感した。

最後に倉庫を見た。さまざまな鉄材の間を奥に進むと、そこには天井に届かんばかりに積み上げられたダンボールの箱に「教科書の文字。あの話は本当だった。しかし、な

教科書も扱う余力 最後は倉庫を見た。さまざまな鉄材の間を奥に進むと、そこには天井に届かんばかりに積み上げられたダンボールの箱に「教科書の文字。あの話は本当だった。しかし、な

ぜ金属加工会社が教科書の取次販売をしているのだろう。社長によると、数年前に教科書販売業者が廃業してしまっただけだ。教科書販売には、一時的に保管可能な広い場所と、各学校に配る人手が必要になる。同社が平成26年から業務を引き継ぐことになり、市内の小・中学生と高校生約7600人分の教科書を扱っている。

なるほど、場所も人も融通が利く会社が兼業するのは、社会全体の効率を考えると実に合理的だと納得した。取材時期は3月中旬で、ちょうど教科書を各学校に配達する直前でした。